



千年村チェックリスト Ver.2.3

千年村チェックリストは、環境・地域経営・交通・集落構造の観点から、自ら住む地域についての自己評価を行うことができます。それぞれの項目や、最終ページの自己評価方法までの一連のフローは、2012年より正式に活動した千年村プロジェクトの実地調査による知見を反映したものです。今後、このチェックリストを利用した千年村認証活動も行う予定です。

- ※チェックリスト記入マニュアルや、過去の事例を参考に記入して下さい。
- ※記入の際は、個人だけでなく複数人で相談することを推奨します。
- ※提出の際には必ず自治会長など集落を取り仕切る方の確認を取ってください。
- ※固有名詞などはできるだけ具体的に記入してください。
- ※出典は必ず明記して下さい。
- ※用途以外での千年村チェックリストの無断使用・無断転載は禁止します。

2017.03.31 千年村プロジェクト

以下、記入欄

○記入者情報

代表者（自治会長など）

氏名：
ふりがな

肩書：

連絡先住所：

連絡先：

千年村プロジェクト
関東活動拠点
早稲田大学

代表記入者 氏名： 松木 直人 所属： 中谷礼仁研究室 連絡先： 03-5286-2496

記入者2 氏名： 甲斐 貴彬 所属：

記入者3 氏名： 所属：

記入者4 氏名： 所属：

0 集落の概要

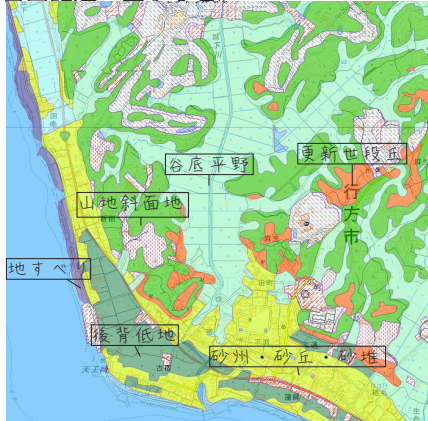
集落の名称	現在の地名（大字） かな なめがたし あそう 行方市 麻生	歴史的地名（参照した古文書の名称とその成立年代） かな なめがたぐんあそうごう わみょうるいじしょう 行方郡麻生郷 （和名類聚抄）
所在地	大字まで書いて下さい。 かな 茨城県行方市麻生	
面積	(平成28年度) 約 7.58 km ²	(平成28年度) 人口 3,198 人 世帯数 1,221 世帯 資料：住民基本台帳より
合併の歴史	年月日、地域の名称の変化など、分かる範囲で書いて下さい。 1955年3月31日に太田村・大和村・小高村・行方村と合併し、麻生町が発足。 2005年9月2日に麻生町・玉造町・北浦町と合併し行方市が発足した。	
地域の記録	○○村史、○○市史など地域の記録はあるか（対象大字より広範囲のものでも可）。その発行年・著者。 『常陸国風土記』（713） 麻生町史編さん委員会 編 『麻生町史・民俗編』（麻生町教育委員会、2001） 麻生町史編さん委員会 編 『麻生町史・通史編』（麻生町教育委員会、2002） 茨城地方史研究会 『茨城の歴史 県南鹿行編』（茨城新聞社、2002） 『麻生の文化（1-46号）』（麻生市麻生郷土文化研究会）	



図1 麻生全体図（赤線で囲まれた内側が大字領域）

調査では旧麻生町麻生の行政区域である「古宿（ふるじゅく）」・「新田（しんでん）」・「宿（しゅく）」・「下淵（したぶち）」・「蒲縄（かばなわ）」・「玄通（げんづう）」・「田町（たまち）」を対象とした。「粗毛」「富田」は行政区分が行方市麻生となってから編入された小字であり、今回は調査対象としなかった。

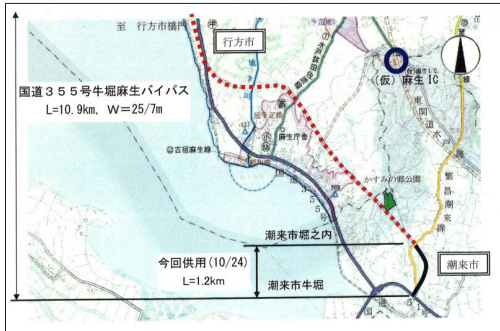
I 環境 —自然とのつきあい方—

番号	ポイント	
①	集落のかたち・立地 古いところ	例) 古い集落はどんな地形に立地しているか。どこの水系に属しているか。また、街道やみなとの関係はどうか。旧河道はどこを通っているか。 - 霞ヶ浦沿いと国道355号線沿いを中心に集落が立地し、いずれの集落も砂州・砂堆・砂丘上の微高地に立地している(図2参照)。 - 集落を神社の氏子となる地域で分けると霞ヶ浦沿いの古宿・新田、内陸側の宿・下淵・蒲縄・玄通・田町にわけられる。霞ヶ浦沿いでは古宿が古くから存在する。内陸側ではどこが古いか正確に言及することができない。
②	生産地(農地や工場など)の立地	例) 農地、工場、商業地、漁業、林業などはどこに立地しているか。圃場整備の範囲はどこか。工場、商業地がいつできたか。耕作放棄地や空地がどこにあるか。旧河道はどう利用されているか。 - 田町北西部の谷底平野・氾濫平野が広大な米の生産地となっている。国道355号線沿いの後背低地では、米・蓮根が栽培されている。耕作放棄地は少ない。 - 霞ヶ浦沿いの新田・古宿・蒲縄には漁業に従事している者が居住しており、古宿・蒲縄には漁港を構える。 - 下淵・玄通を通る商店街通り(現名称は麻生陣屋大通り)には商店が数多くみられる。
③	主要産業・特産物	例) 現在の主要産業は何か。働き先はどこか(集落内外)。かつての主要産業は何か。特産物はあるか。 - 霞ヶ浦沿いの集落では、ワカサギ・白魚・エビなどの佃煮が特産品として生産されている。それらは、集落内で多い永作・大輪を冠する会社によって生産されていることから地元住民によって生産されていることがわかる。 - 古宿・新田では近年いちごの栽培に力を入れ、特産品として有名になっているという話を住民から聞くことが出来た。
④	水源と水の引き方	例) 農業用水の水源は何か。生活用水の水源は何か。井戸が残っているか。地域内の水路はどこを通っているか。 城下川(しろしたがわ)が「田町」「宿」「古宿」の中を流れ、霞ヶ浦に注いでいる。集落北部に広がる谷底平野・氾濫平野での稲作は土地改良以前は城下川の水源地である「黒熊池」中程の「石樋池」を灌漑の水源地としていたが、現在は土地改良工事により石樋池は固められたため、その近くに井戸を掘り、その水と城下川の水、霞ヶ浦からポンプアップされた水をパイプラインで供給している。(ヒアリングより)
⑤	近年の土地開発について	例) 昭和40～60年代、平成、最近5年程度に行われた開発はそれぞれどこか。開発前の土地利用は何か。開発によって商業、交通などどんな変化が起きたか。 昭和34年から38年にかけて、霞ヶ浦と利根川の合流点を仕切る水門である常陸川水門(通称:逆水門)が茨城県神栖市に建設された。水門の設置により、霞ヶ浦の水質は変化し、淡水化が進んだ。また、進行していた湖岸の浸食の対策として、少しずつ堤防を築き、昭和61年に現在の総合開発の堤防が完成した。結果として魚種の変化や漁獲量の減少がみられたため、漁師の生活や食生活に大きな影響を与えた。(ヒアリングより)
⑥	過去の災害とその対策	例) 災害危険区域はどこか(ハザードマップなど)。過去、どのような災害があって、どこに逃げたか、その協力体制。どのような災害を心配しているか。集落内の安全な場所と危険な場所。 城下川河口周辺が特に浸水の危険性が高いとされている。それだけでなく、霞ヶ浦沿いの集落は、全体を通して浸水の危険があるとされている(図3)。昭和33年9月26日の台風22号、平成25年の台風26号ではいずれも城下川が氾濫し宿・下淵の境界付近が浸水した記録が残っている。平成の台風では消防団の協力体制により被害者はでなかったという。 参照:『なめがたヒストリー「行方市の災害史について考える」」(https://namegata.myl.net/mp/history_namegata/?sid=22318) (2017.06.28閲覧)
⑦	その他	自由記述・図示など。   (図2) 土地条件図(出典:地理院地図)(図3) 行方市ハザードマップ(作成:行方市,2015)

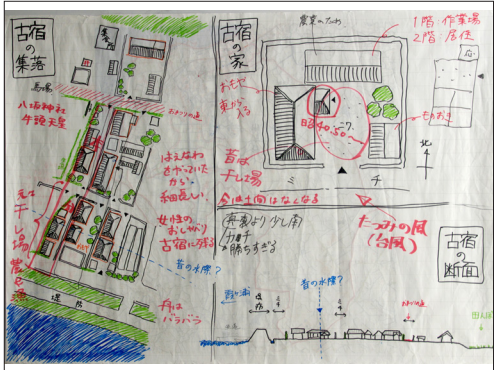
Ⅱ 地域経営 ー集落を支える仕組みー

番号	ポイント	
①	各種組織	例) 行政区、町内、班といった地域的な組織の構成および目的別の組織（消防団、氏子、講など）にはどのようなものがあるか。可能な限り連絡先を記入して下さい。 - 消防団が各集落存在し、活動が行われていることがヒアリングでわかった。 - 八坂神社の「馬出し祭り」は古宿・新田の氏子が、大麻神社の「大麻神社例大祭」は宿・下淵・蒲縄・玄通・田町の氏子が祭りを取り仕切っている。 - 講の存在は『麻生町史・通史編』にて確認できるが、詳細は今回の調査では明らかになっていない。
②	地域内での情報伝達、連絡の方法	例) 地域内での情報の共有や連絡はどのように行われているか。(回覧板・ウェブサイト (URL)・公民館便りなど) 「なめがた日和」という地域ポータルサイトを運営している民間組織(株)フューチャーリンクネットワーク(以下FLN)行方支店は、地域での店舗情報・イベント情報に限らず、行方市と提携し行政情報をWebにおいて発信している。また⑥に後述する、同サイト内の歴史コンテンツは地元出身の社員によって企画・更新されている。
③	山林、里山また湖などの管理主体	例) 地域に共有性のある土地利用(入会地など)が行われているところはあるか。その利用主体の組織はどのようにになっているか。 田町の北西部の水田は麻生内の複数の集落によって所有されている(ヒアリングより)。土地がどのように分割され、管理されているかは今回の調査では明らかになっていない。
④	水の管理主体	例) 水門、水路などの水利用施設の維持管理を行う組合、組織はあるか。農業用水以外の水利用に関わる組織はあるか。 水源の管理は水利組合によってなされている(ヒアリングより)。水利組合の構成に関しては今回の調査に関しては明らかになっていない。
⑤	地域祭礼・年中行事	例) 祭礼についてその概要や成立時期、祭礼と地域住民の関わりはどうなっているか。また地区対抗運動会など地域が参加する年中行事はあるか。 八坂神社では「馬出し祭り」(成立年代不明)、大麻神社では「大麻神社例大祭」(成立年代不明)が行われており、どちらも祭礼において編成される祭礼組織が世代を超えた人々の交流・地域文化の継承の場となっている。
⑥	地域の歴史・物語の伝承	例) 地域の歴史や物語などを伝える活動、組織(郷土史会、歴史遺構の広報活動など)はあるか。可能な限り連絡先を記入して下さい。出版物には出版年・著者などを記入してください。 - 行方市麻生郷土文化研究会 (Tel. 0299-72-0811) 「行方市文化財マップ」(行方市教育委員会 生涯学習課) 「なめくわし『常陸国風土記』行方条ゆかり地を巡る」(行方市教育委員会 生涯学習課) 「なめがた日和」のコンテンツ「なめがた今昔物語」「なめがたヒストリー」では地域の歴史・文化が一般の人にわかりやすく公開されている。
⑦	口伝・通称の地名	例) 住所表示や地図には存在しないが地域で共有されている場所(山、集落、田、川など)の呼称、通称地名はあるか。(フリガナをつける) 「ハマ」…霞ヶ浦沿いの地域 「ナカ」…街道沿いから台地までの地域 「ザイ」…台地上の地域 以上3つの地域を区分する名称が存在することがヒアリングにより確認された
⑧	その他	自由記述・図示など。 「フューチャーリンクネットワーク」(https://www.futurelink.co.jp/) 「なめがた日和」(https://namegata.myp1.net/) ②、⑥で言及したように地域の歴史・文化を伝える媒体が充実しており、積極的に地域を発信しているという姿勢が見られる。 (図4)「なめがた日和」 (図5)「行方市文化財マップ」

Ⅲ 交通 一人とモノの往来

番号	ポイント	
①	昔からの道	例) 古くからある道で名称、種別、用途、起源などがわかるものはあるか。また、どこにつながっていたか、主に何を運んでいたか。 麻生城があった頃、その麓に形成された「宿」からのびるように商店街通り（現名称は麻生陣屋大通り）が形成された。
②	現在の主要な道路	例) 現在の生活の中で主に使われている道はどれか。その名称、完成時期などとそれぞれの利用方法（〇〇へ行く道、集落内移動、さんぽなど） 昭和 20 年頃に霞ヶ浦周辺をつなぐ国道 355 号線の工事が行われた。（麻生陣屋大通りは旧道となった）
③	建設予定の道路の有無	例) 地域に影響がありそうな道路の新規建設計画、拡張などの改良計画はあるか。その名称、完成予定時期、目的、また集落の存続に与える影響など。 国道 355 号（牛堀麻生バイパス）の工事が平成 9 年度から進められている。潮来市牛堀から行方市橋門（はしかど）までの約 10.9km をつなぐこの道路の一部、潮来市牛堀 堀之内間は平成 26 年に開通した。 参照：『国道 355 号（牛堀麻生バイパス）』（http://www.pref.ibaraki.jp/doboku/itado/seibi/r355bp_itako.html）（2017.06.28 閲覧）
④	水運の有無と利用法	例) かつて使われていた水上交通（川、堀、河岸、港など）はあるか。それらは、どのように使われていたか。今はどうか。 - 霞ヶ浦一帯（水郷）における江戸への水運の要であった千葉県佐原と、水運による交流が盛んに行われていたことが言及されている。（『麻生町史、通史編』より） - 昭和 20 年初頭までは、霞ヶ浦対岸の浮島（うきしま）と麻生との交流が盛んであった。浮島から麻生に冠婚葬祭の用品を買いにきたり、浮島と麻生で縁組する人も多くいた。（ヒアリングより）
⑤	鉄道の有無、その経緯と現状	例) 地域に関わりのある鉄道はあるか。廃線になったものも含めて、その路線、駅、主な用途、時代的变化などはどうか。 - 関東鉄道鉾田線が 1927-2007 年に茨城県石岡市の石岡駅と茨城県鉾田市の鉾田駅までを結んでいた。（図 6） - 麻生へと続く鉄道はなく、東関東高速バス麻生鉾田線のバスが 1 日に上下各 6 本出ており、東京駅と麻生市片倉をつないでいる（終点は鉾田駅）。
⑥	その他	自由記述・図示など。   (図 6) 関東鉄道鉾田線 http://k-miyata.com/tabi/hokota/pa8e01.html より引用 (2017. 3. 31 閲覧) (図 7) 国道 355 号（牛堀麻生バイパス） http://www.pref.ibaraki.jp/doboku/itado/seibi/r355bp_itako.html より引用 (2017. 6. 28 閲覧)

Ⅳ 集落構造 —集落の骨格—

番号	ポイント	
①	集落の核	例) 古いと言われている場所、集落の起源とされている場所はどこか。皆が中心だと思う地区、寺社、本家などは、どれでどこにあるか。 - 霞ヶ浦沿いの「八坂神社」(創建年不詳)、内陸側に「大麻神社」(806年創建)が平安期から続く神社といわれており、祭礼行事も行われている。 - 台地上の大麻神社付近に位置する大宮台遺跡(縄文から平安)からは、かつて生活が行われていた事がわかる物品が出土している。 (『麻生町史・通史編』より)
②	墓地の場所と現状	例) かつての埋葬地はどこか。墓地はどこか。その成立時期、管理方法(一族的管理、宗教施設による管理など)に特徴があるか。 千年村プロジェクトの調査では明らかになっていない。
③	集落の維持について	例) 道、石積み、建物などの建設に携わる専門職はいるか。在来工務店はあるか。地場的な素材利用はしているか。 千年村プロジェクトの調査では明らかになっていない。
④	文化・自然遺産の有無	例) 遺跡や旧跡、古民家、古さを示す自然物(御神木など)、古くからある土木構造物はあるか。その年代はいつか。 「麻生藩家老屋敷記念館(旧畑家住宅)」(1856年に消失、翌年再建) 現麻生小学校敷地に麻生藩陣屋があり、その周囲に藩士の屋敷が並んでいた。旧畑家住宅はその屋敷の一つであり、畑家は麻生藩において家老職を勤めていた。 「麻生城址(羽黒山公園)」(中世) ・大宮台遺跡(縄文から平安) 「大宮台古墳」(縄文から平安) (「行方市文化財マップ」より)
⑤	集落の型	例) 集落のかたち。地形や水路との関係はどんなふうか。集落内の民家、敷地に共通点はあるか。〇〇造り等の名称はあるか。(可能であれば図示) - 古宿の集落は霞ヶ浦に対し短冊形に家屋が並ぶ集落配置となっている。 - 霞ヶ浦から時化・大時化の際に吹く強い風が吹くために、家屋は低く計画されていたという。また、風が屋内に吹き込まないように玄関は東南東に向いている。(ヒアリングより) - 現在、南側の二段の短冊には違う世帯が住んでおり、北側が本家、南側が分家という関係を持っている。霞ヶ浦沿いの土地は農業・漁業に際して干場として使われていたが、人口の増大と霞ヶ浦の変化から、分家のための土地となったという。(ヒアリングより)
⑥	暮らしの工夫 村での発明	例) 集落における面白いモノの利用(独特な軒下の形、水場の使い方など)、そのための小さな発明。修繕のしかたなど。 千年村プロジェクトの調査では明らかになっていない。
⑦	その他	自由記述・図示など。   (図7) 古宿の集落(作成: 千年村プロジェクト) (図8) 古宿全体図(作成: 千年村プロジェクト)

自己評価

これまでのチェックリストを振り返り、環境・集落構造・地域経営・交通の各要素について以下の3段階評価を行ってください。
そして、その理由を記述して下さい。また、自己評価をもとに、集落についての総合評価を行ってください。

○自己評価：A・・・優れている B・・・やや優れている W・・・弱い

要素	自己評価	理由
環境	B	基本的に各大字の集落は周囲よりも少し高く位置し、水害に対して安全な土地の上にあるといえる。麻生をはじめとする霞ヶ浦沿いの集落において、昭和30年代以降の霞ヶ浦の開発は環境を大きく変える要因となった。霞ヶ浦の淡水化や汚染によって漁獲量は減り、漁によって生計を立てる生活は難しくなったが農業用水として霞ヶ浦の水を利用するなどして、その変化に対応してきた。 これは霞ヶ浦だけでなく、背後にある山、平野という土地条件が自律した小さなインフラとして機能しているためになし得た対応であるともいえる。このように、<u>時節にあわせて地場の環境を適切に利用してきたことが評価される。</u>
地域経営	A	八坂神社における馬出し祭り、大麻神社における大麻神社例題祭は現在も地域住民によって盛大に行われている。それに際して編成される祭礼組織は地域住民の世代間を超えた地域文化の継承の場となっている。消防団と祭礼組織との関係も多く見られ地域の防災対策としての役割を担う側面も多く見られる。 また、FLNのように、市とも提携し地域情報を発信するだけでなく、<u>行方の歴史を専門知識を持たない地域住民に対して発信する企業もある。</u> このように、<u>祭礼組織や企業など様々な団体が地域文化の継承に貢献している様子が見られたことが評価される。</u>
交通	W	元々は水運による佐原や対岸の浮島と交流が盛んであったが、現在は陸路での交通が発達したために衰退している。現在の主要道である国道355号線は工業地帯である鹿嶋への通勤に利用されるほか、1日に6本東京から鉾田の間を運行する高速バスの経路でもある。また、近辺に鉄道の駅はない。かつては水運と街道による交流が盛んであったが、交通手段は車が主要なものとなっており、他の地域からのアクセスは限られたものとなっている。 以上より、地域への交通網は良いとはいえないが、そうであるからこそ<u>情報網の発達</u>が望まれ、積極的な情報発信に繋がっているとも考えられる。
集落構造	A	古宿では、南の霞ヶ浦から吹く強風に対して玄関が東南東に向けられている様子が見られた。現在、短冊状に二列に形成される集落は違う世帯が住んでおり、それらは北側に本家、南側に分家という関係を持つものがある。この分家の土地は元々農業・漁業に際して干場として使われていたといい、そこを分家の土地として分けたのである。このようにして、漁業が衰退する一方でかつての作業場に勤め人として働く人々の家が建った。 以上のように、古宿の集落構造には霞ヶ浦の環境に対応した工夫と漁業の衰退による<u>生業の変化に対応した土地利用の転用</u>の様子が見られた。

総合評価

自己評価をもとに、この集落がなぜ千年村であるか、どのような点で千年村として優れているのかなど、自由に記入して下さい。
また、それらが千年村認証基準のどの項目を満たしているか記入して下さい。

麻生では城下川沿いに広がる谷戸が内陸の奥深くまで広がっており、米の主要な生産地となっている。また麻生の面する霞ヶ浦では漁業や、水上交通が盛んに行われていただけでなく、淡水化された現在ではポンプアップをおこない稲作のための重要な取水源となっている。

霞ヶ浦だけでなく、背後にある台地、平野という土地条件が自律した小さなインフラとして機能しているために、霞ヶ浦の環境変化に対して適切に資源として活用していくという対応がなされているといえる。

加えて、麻生（行方市）において特筆されるのは、自身による生産・文化のPRが盛んに行われているということである。情報が項目ごとに断片化されているものの、村の持続要因が発信されていることは千年村活動の先行事例としてみることができ、千年村の今後の持続モデルの1ケースであるといえる。

以上のように、環境変化に対し積極的な対応をなしてきたことと、情報の発信を精力的に行っていることから、麻生は千年村認証基準のⅡ（地域経営）に特に秀でた千年村であるといえる。

キャッチフレーズ

集落のキャッチフレーズづくりに挑戦してみましょう。これまでの記述を踏まえて、この集落の持続要因を一言で表してみてください。

「 浦と向き合い、つちかう暮らし」

集落の写真など



集落北部の谷戸にひろがる田んぼ



霞ヶ浦から麻生を望む



古宿の集落



八坂神社の馬出し祭



大麻神社の大麻神社例大祭



蒲縄の漁港